Q：オーラルディスキネジアについて

A：

【オーラルディスキネジアとは】

口腔領域（舌、口唇、下顎）に認められる不随意運動であり、口をもぐもぐさせる動き、舌の突出、顔面のチック様運動を特徴とする。ディスキネジアの出現部位や運動パターン、重症度はさまざまである。

【オーラルディスキネジアの種類と原因】

- ① 特発性ディスキネジア： 高齢者にみられる原因不明のもの
- ② 薬剤性ディスキネジア： パーキンソン病の治療薬が原因
- ③ 遅発性ディスキネジア： 向精神薬の長期服用が原因

【オーラルディスキネジアの症状】

- ① 歯の摩耗や口腔軟膜の損傷：

口の不随意運動によって咬合力の制御ができず歯が摩耗しやすくなったり、補綴物の破損につながったりする場合がある。また、頬粘膜や口唇を誤って噛んでしまうことで潰瘍が生じるリスクもある。

- ② 言語障害：

舌や唇の不規則な動きが話す能力に影響を及ぼすことがあり、言葉が不明瞭になることがある。

- ③ 摂食・嚥下機能の低下：

口や筋肉の不規則な運動により食べ物の咀嚼や嚥下が難しくなることがある。それにより、栄養不良や体重減少などの全身的な健康問題が発生する可能性がある。

- ④ 顎関節症：

咀嚼運動の異常により顎関節に負担がかかり、顎関節症状を引き起こす可能性がある。

【治療】

- ・ 遅発性ディスキネジアであれば、第一に可能な限り抗精神病薬の減量や中止をし、非定型精神病薬に変更する。さらに抗コリン薬の減量や中止を行う。改善しない場合、遅発性ディスキネジアを標的にした積極的な薬物治療を開始するというのが一般的である。その他、フリーラジカルに作用するというのでビタミンEなどによる治療、GABA系の賦活ということでベンゾジアゼピン系による治療、クロニジン、Ca受容体拮抗薬などさまざまな治療法が試みられている。
- ・ 補綴物の作製や修復・咬合調整
- ・ オーラルディスキネジアの患者は口腔内が乾燥している場合があるため、保湿に努める。
- ・ 摂食嚥下機能の訓練